

早稲田大学 スポーツ科学部 古文 講評

〔総合分析〕

<p><b>試験時間</b></p> <p>国語 90 分（現代文 2 問 古文漢文融合 1 問）</p> <p><b>出典</b></p> <p>古文…『唐物語(からものがたり)』</p> <p>第十 徳言、割り持ちたる鏡によりて妻の陳氏と再会する話（全文）</p> <p>漢文…『本事詩(ほんじし)』 情感第一 （一部）</p> <p><b>解題</b></p> <p>『唐物語』…説話。様々な中国説話二十七編を歌物語風に翻訳したもの。成立年は未詳、平安末期の成立か。藤原成範(なりしげ)の編か。</p> <p>『本事詩』…唐の孟棨の撰。主として唐代詩人の詩のできるに至った逸話を記したもの。</p>
--

〔大問別講評〕

大問番号	設問番号	コメント	難易度
(三)	問十四	<p>〈会話文の範囲の指摘〉</p> <p>会話文の範囲を指摘させる設問。普段から引用の助詞に着目して本文を読む習慣を付けておくことは言うまでもない。加えて「徳言」の質問と「女（陳氏）」の答えの対応関係を巨視的に捉えれば判断を誤ることはない。なお、同じ傾向の設問は、2002 年に教育学部で手紙文の範囲を問う設問が出題されている。</p>	標準
	問十五	<p>〈傍線部訳〉</p> <p>2003・2004 年と 3 か所の傍線部を訳させる設問であったが、本年は次の問十六と併せて 2 問となった。この設問は単語レベルの単純な知識を問うものではなく、「ありさま」の内容の判断を要求するものである。「女（陳氏）」の答えの発話との対応を考慮する巨視的な視点が必要。</p>	標準
	問十六	<p>〈傍線部訳〉</p> <p>「かしづく」を理解しているかを問う単語レベル設問。但し単純な知識から選択肢のホを選んだ受験生もいたかもしれないが文脈を判断し語釈をする力が必要であろう。すでに成人している「女（陳氏）」を「大切に育てる」ことはない。</p>	やや易

問十七	<p>〈主体認定〉</p> <p>本学部は新設されて三年目だが、主語を問う設問は初めての出題。とは言え最も基本的な出題形式。傍線部の甲は、文脈を追いながら前から順次読んで来ても主語をきめることができず、後半の内容を全体として把握できるかがポイント。</p>	やや難
問十八	<p>〈理由説明〉</p> <p>傍線部含む文の構造、殊に主語－述語、及び、傍線部に連なる述語を追う、文を構造的に読み解く力を問う。主語が「親王」である点、連なる述語の「昔の男のもとへ送り遣はしたるに」までを考慮すれば正答を得られよう。</p>	標準
問十九	<p>〈和歌の解釈〉</p> <p>和歌に含まれる修辞(縁語・掛詞)を判断させる選択肢と、和歌に譬えられた内容の解釈についての選択肢から、正しいものを二つ選ばせる設問。単純な知識から解く設問ではなく、地の文の内容と和歌との対応を判断する、読解力を問う設問と言えよう。和歌についての設問は、本学部では初めてであるが、2004年には第一文学部・政治経済学部で問われている。</p>	やや難
問二十	<p>〈文法〉</p> <p>本学部が新設されて以来、毎年文法の設問は2題ずつ出題された。本年は1題。「に」の識別の設問であるが、完了の「ぬ」の連用形を選ぶ設問で、さほど複雑なものではない。</p>	やや易
問二十一	<p>〈漢文〉</p> <p>昨年まで、漢文は古文の中に含まれた部分に関する設問が出題された。本年からは内容面では古文といくぶん関連のあるものの独立性のある出題となり、設問数も3題となり分量も増えた。</p> <p>(1) 白文の傍線部を解釈する設問。過去2年、漢文では内容に及ぶ設問は出題されていない。古文の内容を参照すれば、正答は得やすいであろう。ちなみに傍線部は「相保セザルヲ知り」と訓読される。</p> <p>(2) 引用部分にかぎ括弧が付されていないが、引用句に注意し、発話の対象が「其妻」であることを捉えればよい。</p> <p>(3) 返点を付す設問。三年連続の出題、但しその形態は年毎に異なる。本年は不要な返点を選ぶもの。再読文字「宜」・動詞と目的語の関係を見抜けばよい。傍線部は「宜シク以テ之ヲ信トスル有ルベシ」と訓読する。</p>	標準 平易 標準

## 〔総合コメント〕

### 難易度

標準（昨年とほぼ同じレベル）。本文の分量が増えたことと漢文がほぼ独立したことを考慮すると時間的な制約は厳しくなったと言える。

### 分量

増加。本文の分量は、2003年が500字強、2004年が約800字、本年は約1000字と年毎に増加の傾向にあり、早稲田大学の他学部に近いものとなりつつあると言えよう。また、昨年まで、漢文の出題は、部分的なものであったが、本年はかなり独立性のある設問となり、政治経済学部に近い形態となった。その点でも出題の分量は増加にあると言えよう。

### 出典

大学入試では比較的出題されるものである。早稲田大学では99年に人間科学部で『唐物語』の別の部分が出題されている。なお早稲田予備校のテキスト『早大古文・PART I』でも『唐物語』を扱った。受験対策の中では一般的な出典と言えよう。

### 形式

2003・2004の2年、出題の形式はほぼ踏襲されたが、本年の出題形式は、いくぶんの出入りがあり、過去2年と趣を異にした。内容としては、傍線部訳・主語の判断・理由説明・和歌の解釈・文法、漢文では訓読・返点を付けるなど、一般的な大学入試で問われる範囲を出ない基本的な問題設定。